

第2回学校関係者評価委員会（第4回学校運営協議会）

実施日：令和7年1月21日（火）午後5時30分～

場 所：若草南小学校 校長室

参加者：学校関係者評価委員（学校運営協議会委員）・教職員

柴田 一義（藤田区自治会長）
佐藤 正敏（浅原区自治会長）
横森 晶子（主任児童委員）
青柳 ルミ（学習ボランティア）
鳥越 俊吉（PTA会長）
柴田 咲貴（PTA副会長）
小林 正彦（校長）
松田 晃一（教頭）
飯久保幸一（教務主任）

1 学校側から提案の内容

- ①第2回学校評価について
・後期自己評価について
- ②まとめ：学校評価から見られる成果や課題、ならびに改善策について

2 協議された主な内容

- ①学校自己評価の全体評価について
- ②項目ごとの評価・達成状況・改善策について
- ③今後の改善策について

《学校関係者評価書》

教職員アンケート、児童アンケート、保護者アンケートのそれぞれの集計結果を見ると、いずれも昨年度と同様に、肯定的な評価の値が高い結果となった。

児童については、1人1台のタブレット端末を用いて回答をさせたが、低学年については、操作方法に慣れていなかったり、一時的な心情だけで回答したりすることもみうけられるので、回答時には丁寧な指導が必要である。

- ・教職員アンケートの結果は、15の項目に対し、すべての項目で評価の平均が3.2を上回る高い評価結果であった。
- ・児童アンケートの結果は、10の項目のうち、すべての項目で評価の平均が3.0以上のプラス評価だった。評価の平均が3.0であったのは「授業中に発言や質問または意見を言いますか」の項目であった。
- ・保護者アンケートの結果は、10の項目のうち、9つの項目で評価の平均が3.0以上のプラス評価だった。評価の平均が3.0を下回ったのは「子どもは、家庭学習の習慣が身に付いている」の1項目であった。

以上のことから、若草南小学校では学校経営方針に基づき、教育目標の実現に向けて、一人一人の教職員が保護者の理解と協力のもと、それぞれの職務を遂行してきたことにより、教育活動全般にわたって適切な指導が行われ、そのことが児童や保護者に肯定的に評価されていると考えられる。従って、本校の学校評価に係る総合的な評価は概ね良好な水準にあると言える。

しかし、一つ一つの結果に目を向けてみると、有意性は見られないまでも昨年度からポイントが低くなっている項目や、プラス評価ではあるがポイントが相対的に低くなっている項目が各アンケートで見られる。教職員、児童、保護者のそれぞれの調査について考察し課題を明らかにして改善を図っていく必要がある。

Ⅱ 第2回学校関係者評価委員会の中で出された主な意見

1 後期自己評価書について

- ・教職員、児童、保護者アンケートの結果から、学校経営方針に基づき運営されてる。子供たちも先生たちも、楽しく学校へ来ることがまず大事。
- ・「学校に行くのが楽しい」の項目は、評点 93 点と高い、教職員の取組の結果である。大変、素晴らしいと思う。
- ・各項目が昨年（R5）より、評点に大きな乖離が無く、高い評点が維持できている。
- ・子供たちが学校生活を楽しんでいる評価が高く、とても良いと思う。
- ・校務分掌の教員評価の「ややそう思う」が71%と高い。先生によって負担の差があると心身ともに苦しむことも考えられるので配慮は必要であると思う。
- ・保護者からの学校行事への評価が大変高いと感じる。自分の子供が頑張っている姿を見ることが出来る機会が多いということは、満足度が高くなる傾向が大きいということがよく分かる。
- ・働き方改革に配慮しつつ、できる範囲でやっていくことが重要である。
- ・あいさつができない精神状態である場合もあり得るので、「あいさつをさせる働きかけ」ではなく、「挨拶をする、できる」と思った方がするというのはどうか。
- ・指導方法や熱量に差が出るのは、個人差があると思うので、各々ができる範囲で学級ごとに取り組むことでよいのではないか。
- ・校務分掌は手探りで、まだ改善途中なのかもしれません。それぞれの経験値が増えていって考えてはどうか。
- ・防犯対策については、学校、家庭、地域でも、まずは自分の避難経路や避難所について考えることが大切。
- ・教員の人手が増える見込みがなさそうで心配。優先順位の低いものの頻度を減らしてみてもどうか（学級、学年通信など）
- ・児童アンケート、保護者アンケートともに多くの児童が学校を楽しい場所だと感じていて良かったと思った。
- ・あいさつ、家庭学習は私も難しい課題だと思う。私の家でも、子どもが宿題は自らしますが、自主学習まではしていない。あいさつは、学校の指導より家庭での指導が大切なように感じますが、なかなかうまくできないのが現状である。
- ・「放課後童クラブを校内に設置して欲しい」という意見がありますが、私も子どもが入学した時から思っていた。
- ・「小学生としての身だしなみ（髪色、服装等）が気になります」という意見があった。授業参観などで学校に行き児童を見ると、オシャレな子が多くてびっくりする。でも、卒業すると、制服を着て登校し、くつやバッグの色まで決められた生活がまっている

ので、小学生の時は自由でいいのでは…と思う。

2 その他

- ・「あいさつ」について、教職員は今後の課題と捉えていて苦勞をしていますが、保護者の意見の中には「学校であいさつの教育、指導」を望んでいるものがある。あいさつは、まず家庭でのしつけの部分であり難しさを感じます。服装やパーマ、ピアスも同じである。
- ・保護者からの厳しい意見もありますが、学校経営方針を進めて行くことで、改善できると思う。
- ・一番の課題は、「人手不足」にあり、早急な改善が必要である。教職員のモチベーションの低下につながり、学校経営方針の運営に影響すると考えられる。教職員の健康を一番に考え、困難でも対応を願う。

Ⅲ 達成状況と改善策について

各アンケートの結果から、校長の学校経営案に基づいた教育活動が行われ、教職員と児童・保護者・地域との関係が良好であることがうかがえる。前期の取り組みを継続させていく中で、さらなる教育活動の充実を目指していきたい。

そのために、否定的な回答やポイントの下がってきたもの、特に、教職員の多忙化の改善及び授業の更なる充実、教職員の授業力向上への取り組みをどうしていくかを考え、それを重点課題としていく。